

大学院派遣研修での研究内容の概要

所属校	葛飾区立 堀切小学校	氏名	石井 ゆきこ
派遣大学院	東京学芸大学大学院 教育学研究科	専攻・コース	音楽教育専攻 音楽教育分野
研究テーマ	音楽づくりと聴取の関連を図る学習過程 ー 小学校音楽科における「つくって表現」する活動を通して ー		

1 研究の目的

本研究は音楽理解を深める音楽づくりの授業を確立するために、小学校音楽科の音楽づくりの学習過程に現れる聴取を分析し、音楽づくりと聴取の関連を図る授業設計と授業評価の方法を提案することを目的とした。研究の目的を達成するために、次の三つの方法をとった。

- ・音楽科教育の創作領域と鑑賞領域の変遷から、音楽づくりの背景となる聴取観を明らかにする。
- ・音楽づくりの学習過程に現れる聴取を分析し、聴取の視点から音楽づくりと聴取の関連を図る授業設計と授業評価の方法を提示する。
- ・音楽づくりと聴取の関連を図った授業実践を行い、聴取の視点から授業と子どもの学習内容の分析を行う。

2 研究内容

(1) 音楽科教育における聴取の変遷と音楽づくり

音楽づくりの背景となる聴取観を明らかにするために、芸術音楽における聴取の拡大と音楽づくりへの影響、我が国の音楽科教育の鑑賞領域・創作領域における聴取観について整理し、考察した。これによって、聴取観の拡大が音楽づくりに影響を与え、音楽づくりと聴取の関連を図ることが重視されてきたことを明らかにし、関連を図る意義を示した。

(2) 音楽づくりと聴取の関連を図る学習過程

表現と鑑賞の関連を図る学習の変遷と論議について整理し、「表現活動と鑑賞活動のバランス」「音楽の学びと享受の両立」「関連の方法」などに問題があることを明らかにした。その解決策として、「表現と鑑賞による学習内容の明確化」「音楽の構造を学び、よさを味わう学習の確立」を提起した。

以上を踏まえて、音楽の構造的側面と感性的側面に着目し、音楽理解を深め、音楽科の学力を育む聴取として、2つの聴取を提示した。

【 音楽理解を深める聴取 】

A 分析的聴取..... 音楽の構成要素からなる構造的側面を分析的に聴き取る聴取

B 統合的聴取..... 音楽の構成要素の働きによって生み出される曲想、情景、様式など感性的側面を感じ取り味わう聴取

同様に音楽づくりのねらいも、「音楽の構成要素の学び」（構造的側面の学び）と「イメージの表現」（感性的側面の感得）に大別し、2つの授業のタイプを提示した。

【 音楽づくりと聴取のねらいを一致させた授業 】

α 音楽の構成要素の学びをねらいとし、分析的聴取を関連付けた音楽づくり

β 音楽のイメージを表現することをねらいとし、統合的聴取を関連付けた音楽づくり

さらに、学習過程という時間軸に着目し、音楽づくりの学習過程に現れる聴取として、次の6つを提示した。

【 音楽づくりの学習過程に現れる聴取 】

〈 a ねらいの把握 〉 〈 b モデル提示 〉 〈 c 表現媒体の模索 〉 〈 d 音楽づくり 〉
 〈 e 評価 〉 〈 f 検証 〉

以上の「分析的聴取 (A)・統合的聴取 (B)」と「音楽づくりの学習過程に現れる聴取 (a~f)」の視点をかかわらせて音楽づくりの学習過程を分析することにより、対象とする授業の学習内容、学習方法、学習過程が適切であるかどうかを判断しようとした。

授業を分析する方法としては、聴取 A・B と a ~f を指導案の中に表記した〈授業分析表〉、題材の学習内容を音楽の要素ごとにまとめた〈学習内容一覧表〉、学習過程に現れる聴取 A・B と a~f を図式化した〈学習過程図〉の3つを提示した。

(3) 音楽づくりと聴取の関連を図った授業実践と分析

音楽理解を深める音楽づくりの事例として、 α 型授業「音楽の構造的側面を学ぶ音楽づくり」と β 型授業「音楽の感性的側面を味わう音楽づくり」を提示した。各事例では、前述の聴取 A・B と a~f の視点によって授業分析を行った。また、音楽づくりの前後に同じ楽曲による鑑賞活動を行い、自由記述による感想を書かせた。その内容を分析することで音楽づくりが鑑賞活動に与えた影響を検討し、授業評価の方法の1つとした。

① 事例1 構造的側面を学ぶ音楽づくり

第4学年「リズムによって表現する楽しさを味わおう」

この題材では、カホンによるリズムアンサンブルづくりによって、リズムをつくったり、友達と合わせたりすることを楽しむ学習を展開した。分析的聴取を関連付けることで、〈音色〉や〈リズム〉に学習内容を焦点化した学習となった。児童の感想の分析からは、音楽づくりの演奏経験を通して奏法と関連する音楽の構成要素に気付くようになり、より多様な構成要素を感じ取るようになることが明らかになった。

② 事例2 音楽の感性的側面を味わう音楽づくり

第3学年「情景を表す音楽を楽しもう」

この題材では、森の四季の情景を想像して音楽を聴いたり、即興的に音で表現したりすることを楽しむ学習を展開した。統合的聴取に重点を置きながら、曲想の基となる音楽の構成要素に気付く学習となった。児童の感想の分析からは、情景を表す表現活動を通して、鑑賞における情景想像がより具体的になることが明らかになった。また、子どもは情景を想像することで様々な音楽の構成要素を感じ取っていることもわかった。

3 研究成果と課題

本論文では、学習のねらいを焦点化した典型的な事例を提示したが、音楽の構造的側面と感性的側面は切り離せないものであり、実際には両面をかかわらせて授業をすることが望まれる。学習のねらい、子どもの実態、音楽(教材)の3つのかかわりの中で、構造的側面と感性的側面の学びのバランスをとることが、授業設計において重要である。

表現と鑑賞の関連は、音楽科の全領域における課題である。本研究の聴取の視点を活用し、歌唱・器楽等、他の表現領域との関連にも応用していきたい。

大学院派遣研修成果活用状況

所属校	葛飾区立 堀切小学校	氏名	石井 ゆきこ
派遣大学院	東京学芸大学大学院 教育学研究科	専攻・コース	音楽教育専攻 音楽教育分野
研究テーマ	音楽づくりと聴取の関連を図る学習過程 － 小学校音楽科における「つくって表現」する活動を通して －		
1 所 属 校 で の 成 果 活 用	<p>(1) 研究報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度3月に本校の教職員を対象とした研究報告会を行い、論文の研究内容について報告した。 <p>(2) 日常の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の関連を図る題材構成の工夫や継続した鑑賞タイムの活動を行い、児童の音楽的な感受と鑑賞の能力の育成に努めている。 ・音楽鑑賞で子どもがワークシートに記述した内容を評価するときに、本研究で提示した聴取の視点を活用している。 <p>(3) 校内研究への活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主任として、校内研究の推進に努めている。研究主題を具体化する視点の一つである「単元構成の工夫」は、本研究の題材構成の考え方と一致するものである。 		
2 委 員 会 ・ 研 修 会 で の 成 果 活 用	平成17年度については、教育委員会主催の研修会での発表等はない。		

<p>3 成 果 を 生 か し た 研 究 授 業 等</p>	<p>(1) 校内研究における研究授業 実施日：平成17年10月19日（水）第5校時 題材：第5学年「リズムによって表現する楽しさを味わおう - STOMP に挑戦 -」 内容：論文の中の事例として行った第4学年の授業の発展として、身の回りの物を使ったリズムパフォーマンスの創作に取り組んだ。表現と鑑賞の関連により、音の出し方、リズムの特徴、構成に気付かせ、自分たちの表現に取り入れるようにした。 この題材で取り組んだリズムパフォーマンスは、学習発表会（11月18日～19日実施）の演目として発表した。 *別紙 指導案参照</p> <p>(2) 教育雑誌への寄稿 ・『教育音楽 小学版』（音楽之友社）平成17年4月号～6月号で、論文内の事例「リズムによって表現する楽しさを味わおう～カホンでリズムアンサンブル～」(第4学年)を具体的に紹介した。 ・論文内の事例「情景を表す音楽を楽しもう～森の四季～」(第3学年)をもとに、鑑賞のプロジェクト研究の座談会に参加した。その模様は『音楽教育実践ジャーナル』vol.2 no.2（日本音楽教育学会）2005年3月30日発行 に紹介された。</p> <p>(3) 学会での発表 ・日本ダルクローズ音楽教育学会の第5回研究大会（平成17年11月23日）のパネルディスカッション「身体の動きは小学校音楽科のなかでどう位置づいているか」で「鑑賞の授業に見られる動きの意味」について発表した。</p> <p>(4) 自主研修会の実施 ・鑑賞教育研修会を企画・運営し、参加者と共に指導事例の作成を行った。 実施日：平成17年8月22日～23日 会場：音楽鑑賞教育振興会 資料室 参加人数：小学校教員11名 内容：研修テーマ「聴いて感じて味わう音楽鑑賞の授業のあり方」 表現と鑑賞の関連を図った指導事例の作成、模擬授業と協議</p>
<p>4 今 後 の 活 用 計 画 等</p>	<p>(1) 指導事例の開発 ・創作と鑑賞の関連を図った指導事例の開発を行う。 *予定：平成18年1月 題材：第5学年「音を描こう - 図形楽譜による即興的な表現 -」</p> <p>(2) 学会・研究会等での発表 ・創作と鑑賞の関連を図った実践事例による発表を行う。 *予定：平成18年4月8日 会場：東京学芸大学 内容：シンポジウム「現代音楽と音楽教育の課題」</p> <p>(3) 自主研修会の企画・運営 ・鑑賞教育に関する自主的な研修会を継続して実施する。 *予定：平成18年8月21日～22日 会場：音楽鑑賞教育振興会 資料室</p>